

# 研修員's VOICE

Vol. 20

世界各国からJICA沖縄にやって来た  
研修員を紹介しています。

出典：外務省HP



氏名：Ms. NAKAMA Liliana Claudia (リアナさん)

国名：アルゼンチン共和国

研修期間：2018年12月2日～2018年12月22日

コース名：沖縄ルーツの再認識を通して学ぶ  
ソフトパワー活用と地域活性

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

17

パートナーシップで  
目標を達成しよう



持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。

## アルゼンチンの日系人社会

日本の裏側、南アメリカ南部に位置するアルゼンチンには約3万人の日系人がおり、その7割が沖縄県系人とされています。毎年12月には「沖縄祭り」が開かれ、琉舞や三線、エイサー等も見られます。私は両親が宜野座村出身の日系2世で、家庭ではスペイン語、日本語、ウチナーグチ(沖縄方言)が飛び交い、沖縄の料理や習慣に親しんでいました。両親は沖縄の誇りを持ってアルゼンチンに渡り、私たちの中にはいつでも「小さな沖縄」があったと感じています。現在、私は日本語講師として、日系3世、4世の若い世代や日本のアニメや文化に興味を持つ非日系人に日本語を指導しています。



家族の写真(左端が幼少期のリアナさん)

## 研修に参加したきっかけは？

2年前「アルゼンチン 沖縄移民100年の歩み」という本の西語版の翻訳に携わりましたが、移民の歴史や沖縄について知らないことが多く、ネットで情報を集めながら翻訳をしました。百聞は一見に如かず、自分の目で沖縄を学びたいと思い、今回の研修に参加しました。講義や博物館、首里城、平和祈念公園等の見学を通して、今まで抱えていた疑問の答えは、全て沖縄にあると確信しました。現在の日系社会は4世、5世の世代になっています。彼らは1世の生の声を聞く機会がほとんど無く、日本や沖縄を身近に感じるできません。若い世代に移民の歴史や母国の文化を継承していくために、今後は自分の見聞きたことを残す活動をしていきたいです。



世界エイサー大会2018に特別出演しました

## 沖縄での滞在はどうでしたか？

恩納村の長寿料理体験で食べたクーブイリチー(昆布炒め)やラフテー(豚の角煮)は、かつて母が作ってくれたものと同じ味で、とてもおいしかったです。滞在中、宜野座村にいる親戚や在アルゼンチン宜野座村人会で受入れた宜野座村からの研修生と再会することができました。何と言っても、ボリビア、ブラジル、ペルー、アルゼンチンから参加した仲間と一緒に研修できたことはとても良かったです。日系子弟としての習慣や経験がみな共通していて、兄弟姉妹のような感覚になりました。今後もウチナーンチュネットワークという横のつながりを大切にしていきたいと思います。



沖縄の長寿料理作りにチャレンジ